



所在地/埼玉県坂戸市
 学生数/約7300人(うち医療栄養学科は350人)
 学部/経済、現代政策、経営、理、薬
 大学院/経済学、経営学、理学、薬学
 ▶THE世界大学ランキング2020 日本版/201+位

2023年春キャンパス構想図

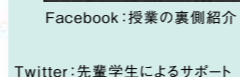
学力に加えモチベーションの向上も図る入学前後の教育

	入学予定者の状態	入学前教育	初年次教育	専門教育
学力・学修習慣	多様化 生徒によって異なる多様な学習状況 ・化学や生物を履修していない ・数学が苦手 ……など	多様化への対応 大学オリジナル課題 + 初学者向けの教育プログラム	定着 化学、生物の復習授業 [講義と問題演習 →確認テスト →不合格者は補講] のサイクルで定着を図る	付加価値の高い管理栄養士になるための 基礎学力の定着と学修習慣の確立
モチベーション	高い 医療栄養や食を通して、人の役に立ちたいという強い気持ち	維持 入学前の不安解消を目的とした ・メールやTwitterによる先輩学生への質問制度 ・YouTube等による学科情報の発信	向上 ・1人の専任教員が学生4~5人を受け持つ担任制度 ・入学前教育のデータを活用した個別指導	

注目! さまざまなチャネルを使った情報提供により不安を解消

同学科が大切にしている「高いモチベーション」を大きく揺るがしかねなかったのが今回のコロナ禍だ。「キャンパスに来て授業を受けることで得られる満足感が、本年はない状態。不安や欠落感を埋めようと、あらゆるチャネルを駆使して情報を提供しています」と語るのは、真野教授と共に情報発信の中心役を担う君羅好史助教だ。

先輩学生への質問制度には、メールのほかにTwitterを追加。匿名で質問できるようにしたところ、200件超の投稿が寄せられた。YouTubeでは、学科や教員紹介の動画のほかラジオ番組も配信。気軽なおしゃべりで学びへの興味を喚起している。そのほか、Facebookで各種実習の様子を伝えたり、昼休みに教員と昼食をともにできる「Zoomランチ会」を開催したり。「SNSで発信する情報が新入生のモチベーションを支えているのは間違いありません。通常なら質問に来ないような学生がチャットで話しかけてくるなどポジティブな面も多い」と真野教授は手応えを感じている。



城西大学 薬学部医療栄養学科

CASE STUDY

多様な学習状況に対応した入学前・初年次教育



教授 薬学部医療栄養学科主任 **真野 博**
 まのひろし ● 1989年東京農業大学農学部農芸化学科卒業。1994年同大学大学院農学研究科農芸化学専攻博士後期課程修了。明海大学歯学部口腔解剖学講座助手、東京農業大学応用生物科学部バイオサイエンス学科講師を経て、2001年城西大学薬学部医療栄養学科講師。2005年准教授、2010年教授、2017年現職。

付加価値の高い管理栄養士をめざし、意欲の高い入学者が集まるという同学科。入学前後のきめ細かなサポートにより学力を底上げし、意欲も維持・向上させている。

志望意欲を重視して多様な学生を受け入れ

本学科は、薬学の知識・技能を持った管理栄養士を育成する医療栄養の専門学科です。薬物治療などの科目も必修であるため、一般的な養成課程よりも学修量が多いカリキュラムになっています。しかし入試は、専門の学修に必要な化学や生物を必須にせず、高校でそれらを履修していない学生も入学できるようにしています。入学者の学習状況は多様ですが、「医療栄養や食を通じて人の役に立ちたい」という思いは皆同じ。それは、祖父の糖尿病が食事療法で改善したなどの体験から、「自分もそのような仕事をしたい」と本学科を志望する学生の多さからわかります。その気持ちを持ち続けて4年間しっかりと学修すれば十分

に管理栄養士の国家試験に合格できます。そのため教育体制を本学科は整えています。

基礎学力と学修習慣を1年前期までに定着

学力や学修習慣が多様な学生を専門教育に接続させるには、合格後から1年前期までが勝負です。化学と生物の基礎学力を身に付け、学修習慣の定着を図るため、本学科は入学前教育や初年次教育、学修サポートに力を入れています。まず入学前教育では、化学や生物を履修していない初学者が基礎の基礎から学べるように、本学オリジナル課題と外部のプログラムを組み合わせた教材を使用しています。以前はオリジナル課題だけでしたが、化学や生物が得意な教員が作成すると「これくらいはできるはず」という期待値が入り、課題の難易度が上がってしまいました。そのため、今は外部のものも活用して、初学者が取り組みやすい工夫をしています。初年次教育では、学修確認と学修サイクルを通して、基礎学力と学修習慣の定着を図っています。隔週の水曜日に課外で行っている化学と生物のリメディアル講義では、1、2限にテキスト解説

と問題演習、3限に確認テスト、4限に補講を行います。それを半期に8回実施する中で、学生に大学での学修の型ができてきます。基礎学力や学修習慣も大切ですが、学修の継続にはモチベーションの維持が欠かせません。特に1年生は、生活環境が変わる不安からモチベーションが低下する可能性があります。そのため、先輩学生への質問制度を設けて、不安解消を図っています。先輩学生は、自分の振り返りや、人の助けになることから積極的に協力してくれています。後輩への伝え方について相談を受けることもあります。

入学後は、1人の教員が4~5人の学生を受け持つ担任制で学修をサポートします。学生に相談しやすい関係をつくるため、半期に2回の面談を実施。学生の学修状況は、半期ごとに教員間で成績を共有し把握しています。入学前教育の成績や課題の提出状況などのデータを活用すると、半年早くその把握ができるようになります。このことは、担任が学生に対するサポートを考えるうえで大変役立っています。

これからも、入学前後で学修の土台を丁寧につくり上げ、多様な学生を「付加価値の高い管理栄養士」に育てていきます。